

平成 23 年 3 月 24 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20520326

研究課題名 (和文) 国家変容と言語問題のモデル的研究：ハンガリー語のケース

研究課題名 (英文) A Model Study on State Transition and Language Policy:
the Case of Hungarian

研究代表者 岡本 真理 (OKAMOTO MARI)

大阪大学・世界言語研究センター・准教授

研究者番号：10283839

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：その他の各国文学・ハンガリー語

1. 研究計画の概要

本研究では、ヨーロッパ、とりわけハンガリーにおける近代から現代にかけての国家の変容と言語政策の関わりのあり方を検証するのが目的である。複雑な歴史的事情をもつ東欧諸語の中でも、ハンガリーは被支配民族であると同時に、国家形成期には周辺諸民族に対しハンガリー化を行う支配民族であったという2重の構造にあり、また20世紀には国土の分断と民族の離散も経験した。このようなハンガリーのケースをモデルとして、ハンガリーの近現代（国家形成、植民地的拡張、民族の離散）を通時的に捉えることで、国家の変容と言語問題のあり方に対して普遍的な問題点を提示することを目的としている。

2. 研究の進捗状況

(1) 啓蒙期（18世紀末～19世紀初頭）ハンガリーのナショナリズムの生成と、改革期（1830年～1848年）の言語問題について、この時代に成熟していった民衆文学に焦点を当てて検証した。近代を通して民族言語問題の主たる担い手であり続けた詩人

たちの活動と作品により大きな重点をおくことで、国家による言語政策というマクロの視点では捉えきれない、より綿密かつ動的な近代社会の心象風景としての言語問題にアプローチするよう試みた。民謡や口承伝承文学、その中で農民のことばの再発見と再評価が、文学を通したハンガリーの近代言語運動の重要な核であることを検証した。研究成果は、論文「生粋のハンガリー人像を求めて--ペテーフィ『勇者ヤーノシュ』とアラニュー『トルディ』を比較する」（2009年刊行）にまとめた。

(2) 平成21～22年度は、ちょうどこの時期に注目を集めることとなった、ハンガリーの隣国スロバキアにおいて可決された新言語法（2009年9月施行）に焦点を当てた。

新言語法の内容と、国内少数民族の言語権への影響、またそれをめぐる国際社会の関与について検証した。スロバキア国内の最大マイノリティーグループであるハンガリー人のケースをモデルとして、両民族の歴史的関係や国家形成の過程を分析することを通して本言語法のもつ独自の性格を明らかにし

た。また、これを EU 諸国の他の言語法と比較検討することにより、国家の変容と民族問題の普遍性の一片を解明した。研究成果は論文「国語の促進か、少数言語の保護か？—スロバキア新言語法(2009)のケース—」(2010年刊行)にまとめた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究テーマの取り扱う順序が当初の予定と入れ替わっているものの、だいたいのところ当初の計画に沿って進んでいる。

近現代のハンガリーの国家変容の中で、これまで研究を進めてきたのは、1つには国家形成期—である啓蒙期から近代ナショナリズム期の民族言語問題について、おもに文学活動において詩人らが農民のことばへの志向へと傾倒していく過程を検証した。もう1つは、2009年に現代の国家と言語政策の関連を如実に表したスロバキアの新言語法が施行されたことに注目し、スロバキアとハンガリーの両民族が関わった近現代の国家の変容のあり方という文脈において、この法をめぐる問題を分析した。

4. 今後の研究の推進方策

2010年度は現在の言語問題としてクローズアップされたスロバキア言語法に集中したため、近現代全体の流れの中では、国家形成期から拡張期に関わる言語問題にまだまだ着手していない状態である。今後は、ふたたび時代を遡り、1848年革命前後の言語運動と文学運動の関わりについて研究を進める。また、国民国家形成を標榜する1840年代と、「アウスグライヒ」後に帝国内で優位な立場にたち、周辺少数民族に対してある種の植民地主義的政策を展開していく1870年以降19

世紀末にかけて、言語政策と文学活動の展開を検証する。ハンガリー語公用語への法制化、文学雑誌・大衆雑誌に見られる言語復興運動に関わる活動や言説の分析を通して、ハンガリーにおける民族言語運動の発展と民族間の衝突を明らかにする。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計2件)

① 岡本真理「国語の促進か、少数言語の保護か？—スロバキア新言語法(2009)のケース—」大阪大学世界言語研究センター論集第4号, 119-132頁, 2010年, 査読あり。

② 岡本真理「生粋のハンガリー人像を求めて—ペテーフィ『勇者ヤーノシュ』とアラニュー『トルディ』を比較する」大阪大学世界言語研究センター論集第1号, 141-154頁, 2009年, 査読あり

[学会発表] (計2件)

① 岡本真理「スロバキア言語法(2009)とハンガリーへの影響」日本ウラル学会37回研究大会, 2010年7月3日, 麗澤大学東京研究センター

② 岡本真理「スロバキアとハンガリー：近くて遠い関係」関西チェコ・スロバキア協会, 2009年10月24日, 関西チェコ・スロバキア名誉領事館